

地域小水力発電事業

質問Ⅱ施設の維持管理はどこに
答弁Ⅱ地域委託を考えている



市川 けんじ 議員

東日本大震災以降、原子力発電の長期停止により、再生可能エネルギーへの取り組みが注目されている。町においても「地域小水力発電事業」を計画していると聞いているが、具体的にどのようなに進めるのか。

また、施設が完成したら誰が維持管理を行うのか。

伊東本川総合支所次長

まず、候補として伊野地区1か所、吾北地区2か所、本川地区2か所の計5地点を抽出



し、現地踏査により、取水堰、導水路、管路ルートや発電所設置場所などをイメージして3か所を選定、その後、河川の流量調査を行い、最終的に1か所に決定する。

施設の維持管理については、導水路に流れ込む木々などの清掃、異常出水が予想される場合の事前作業など、日常の維持管理業務は地域への委託を考えている。

みどり寮の建て替えを検討しないか

市川議員

本川中学校「みどり寮」は全寮制の公立中学校として、昭和51年1月に設置されて43年を迎えている。老朽化も進み、部屋についても、当初は多いときで、1部屋4人で使用されていたようだ。現在は原則2人とのことだが、昨今は個人のプライバシーが守られる1人用が望まれているのではないかと。谷あい湿度の多いみどり寮を時代に合った新しい施設に建て替えるつもりはないか。

藤岡教育長

みどり寮については平成23年に耐震補強工事と同時に大規模改修を行っている。また、平成26年度には浴室の寒さを軽減し、利用人数に応じた浴室へと改修も行っている。

1部屋を1人及び2人で使用することで、一定のプライバシーの確保、生徒そ

それぞれの内面や生活実態への配慮といった点でもより良い運営に努めている。

今後、寮受け入れ人数についても大幅な増員はせず、現時点で受け入れ可能な範囲で運営していく。

建て替えについては、今しばらくは多様化する生徒の動向や心身の状況を見守りながら、既存の施設を安心・安全に、より快適に生活できるように、改修をしながら運営をしていく。

一般競争入札の資格要件に町内実績を

市川議員

町では、災害時の応急対策活動協力に関する協定を平成18年12月5日に伊野地区建設業協会・吾北地区建設業協会・本川地区建設業協会と締結していると聞く。

南海トラフ地震の発生が危惧されている昨今、また、台風や集中豪雨による災害も、いつ起こるのか予測できない。

そのような有事の際、一番先に協力してくれるのは町内の業者ではないのか。

町内業者が対象となる一般競争入札の参加資格要件に施工実績を条件付ける考えはないか。

池田町長

町内業者の方には、台風や大雨時には昼夜を問わず、見回りなどの対応をいただき、日頃のご労苦に対し、大変感謝をしている。

一般競争入札の参加資格要件に町発注工事の施工実績を入れることについては、近隣市町村に聞き取りをしたところ、事例は確認できていない。法令の遵守は第一義であり、公正性・透明性・競争性を向上させる入札制度となるよう、継続的に研究協議を行う。